

部活動の地域移行は **手段** であり **目的** ではない

学校の部活動を**現状のまま**地域に「移行」することを**目的**にすると・・・

- 01 「休日の部活動を、地域の人たちに任せていけばいい」、
「教職員の負担を地域に肩代わりさせる」という空気になる。
- 02 活動量や指導者の役割に対して、これまでと同様の水準を求める声を、
地域の方が肩代わりすることになる。
- 03 「部活動＝無料」という意識が根付いており、参加費を徴収することへの
理解を得ることが困難になる。

手段

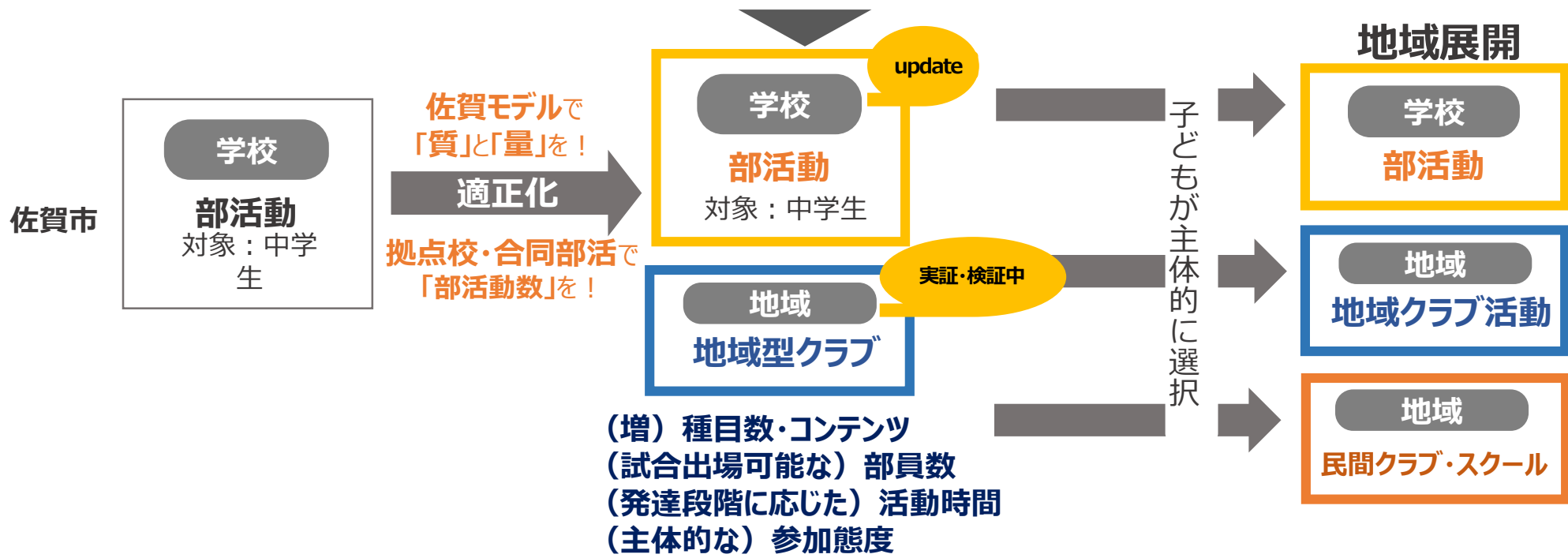
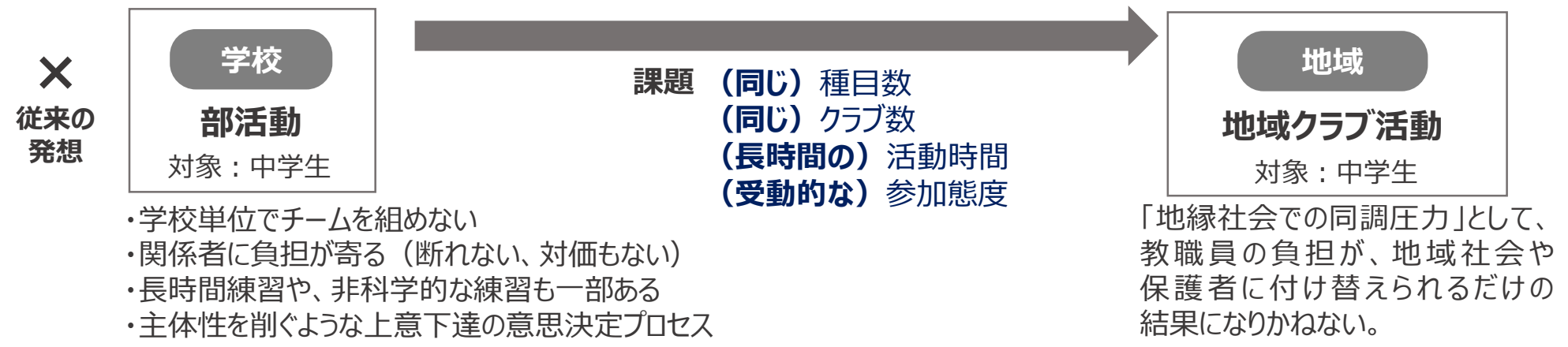
部活動の地域移行

目的

**健全で 持続可能な
「教育環境」「文化・スポーツ環境」を創造する**

令和6年度 佐賀市部活動地域展開事業

現在の部活動を「そのまま地域にスライド」させることは持続可能ではない



方向性 **1 佐賀モデル** (佐賀市部活動適正化モデル)

【目的】現在の学校部活動の適正化

生徒が「**より主体的に**」、**適切な時間** (週8時間程度) で活動し、
より良い、文化・スポーツ活動を実現すること

先行モデル実施校 (5校)

- ・芙蓉校中学部 (7月～)
- ・東与賀中学校 (7月～)
- ・諸富中学校 (9月)
- ・三瀬校中学部 (9月～)
- ・川副中学校 (12月～)

先行モデル校における取組

STEP 01	ワークショップ① (生徒・先生対象)	【市教委】 ・生徒への事前アンケート ・「主体的に」、「適切な時間 (週8時間程度)」で取り組む意義と効果を共有	子どもたちの尊重
STEP 02	ワークショップ②	【学校 (顧問)】 ・(例) 生徒主体で、自分たちで決めたい内容を決定 ・(例) 生徒主体で、練習計画を作成	子どもたちの尊重
STEP 03	実践	【学校 (顧問)】 ・練習内容を主体的に決定 ・週あたり8時間程度で活動	子どもたちの尊重
STEP 04	検証	【市教委・学校】 ・事後アンケートの実施、結果のフィードバック ・子どもの声をもとに佐賀モデルの改善	プロチーム指導者 国スポアスリート
佐賀モデル充実のための Support		・専門家との連携 (佐賀モデル実践校への重点配置) ・質の向上 (顧問のファシリテート力向上)	

(1) ー① 実証事業の実施状況報告

方向性 **1 佐賀モデル** (佐賀市部活動適正化モデル)

佐賀モデル充実のための
Support

プロチーム指導者
国スポアスリート

- (1) 競技専門性も含めた、あらゆる種目に通ずる**運動パフォーマンス指導**
- (2) 指導者の競技経験に基づいた、**主体的な活動につながるアドバイス**
- (3) 生徒及び部活動顧問との**質疑応答** (意見交換)



種目に関係なくできるトレーニング 家でもできる柔軟・体幹トレーニング フェンシングと剣道の共通の動き

協力いただいた指導者 ※敬称略

- ①上田 直樹 (体操)
- ②中山 怜 (体操)
- ③伊藤 心 (フェンシング)
- ④齊藤 憲司 (フェンシング)
- ⑤雨田 由香 (フェンシング)
- ⑥山川 夏輝 (陸上)
- ⑦許田 悠貴 (陸上)
- ⑧瀬戸口 大地 (陸上)
- ⑨水町亮介 (バスケット)
- ⑩鈴木龍雄 (バスケット)
- ⑪高良直輝 (バスケット)

①～⑧：SSPメンター・国スポ出場者

⑨～⑪：佐賀バルーンズ指導者

	対象校	対象部活	指導者番号 (属性)	対象校	対象部活	指導者番号 (属性)
2/1	芙蓉	ソフトテニス	⑥ (陸上)	諸富	軟式野球・柔道・ 剣道・バスケ・バレー	① (体操) ⑦ (陸上) ④⑤ (フェンシング)
2/8	東与賀	バスケ・サッカー・卓球・ ソフトボール・	② (体操) ⑧ (陸上)	競技専門以外の指導者が、 運動パフォーマンスの支援をする		
2/1 1	三瀬	剣道	③④ (フェンシング)			
2/1 5	川副・諸富・東与賀バスケ部		⑨・⑪ (バスケット)	新たな価値の 創造		
2/2 2	三瀬	卓球	⑥ (陸上)			
	川副・諸富・東与賀バスケ部		⑨・⑩ (バスケット)	東与賀	バレー・卓球	② (体操) ④ (フェンシング)
3/1	川副・諸富・東与賀バスケ部		⑨・⑩ (バスケット)			
3/15	川副	バスケ	① (体操) ⑥ (陸上)			

方向性 1 佐賀モデル (佐賀市部活動適正化モデル)

プロチーム指導者
国スポアスリート佐賀モデル充実のための
Support

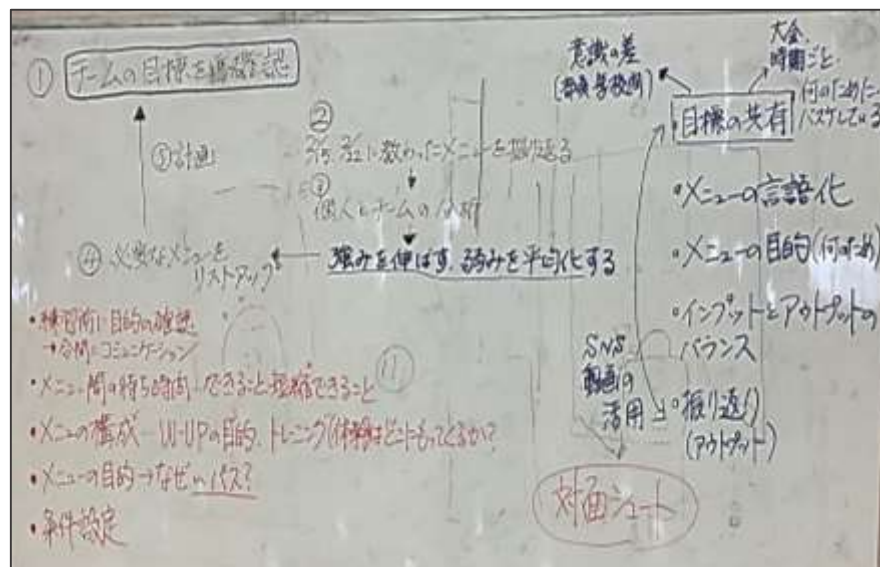
- ▶ 週8時間程度の活動時間で実施できる効率的な練習メニューの提供
- ▶ 自宅でも継続できるストレッチや体幹トレーニングの指導
- ▶ 生徒主体で活動設計するためのアプローチ
- ▶ 生徒の意見を尊重し、主体性を育む指導方法（コーチング）の提供



目標の確認・練習メニューの選択



練習計画の作成・アドバイス



週8時間程度で活動するためのポイント

STEP 03 目標を達成するための計画を立てよう

1週間単位で計画を立てる際の留意点

- ✓ 練習メニューの1週間単位で計画を立てる際は、大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 1週間単位で計画を立てる際は、大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。
- ✓ 大会時間と練習時間のバランスを考慮する。

Q1 目標達成するための練習メニューと練習時間を考えよう

Q2 平日練習の時間割をコーディネートしよう

曜日	練習メニュー	練習時間
月		
火		
水		
木		
金		
土		
日		

STEP 02で記入したメニューから自分のため、チームのために必要なメニューと練習時間をリストアップしよう

Q3 1週間単位の活動計画を立ててみよう！(練習時間と練習メニューを記入)

月	火	水	木	金	土	日
練習時間						
練習メニュー						

大会やコンクールを目標に短期的、中期的、長期的な観点で取り組むことが大切！

各チームで作成した計画

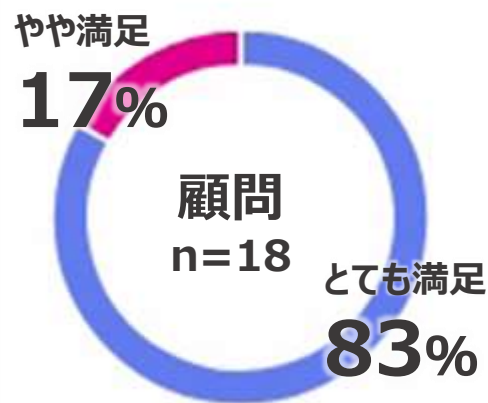
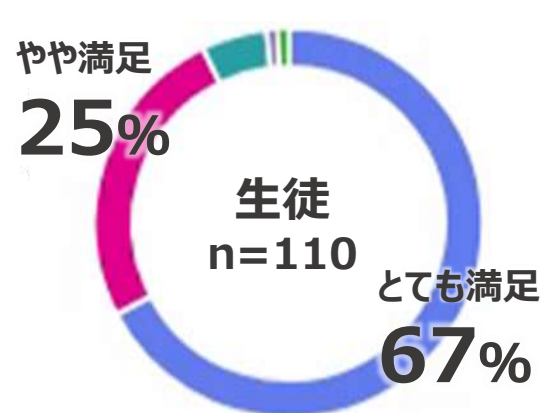
顧問への支援として、
技術指導以外の役割を示す新たな価値の
創造

方向性 ① 佐賀モデル (佐賀市部活動適正化モデル)

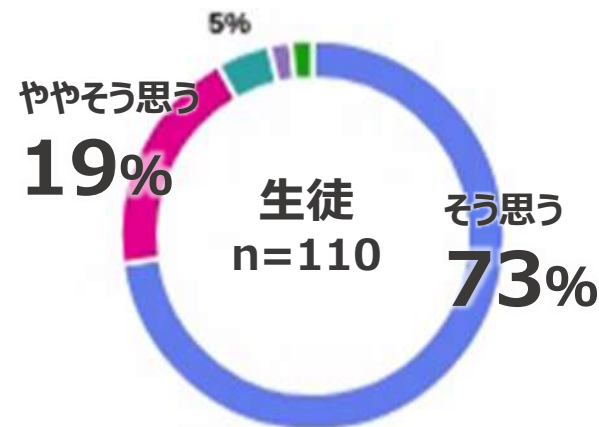
佐賀モデル充実のための
Supportプロチーム指導者
国スポアスリート

アンケート結果① (R7.3/7時点)

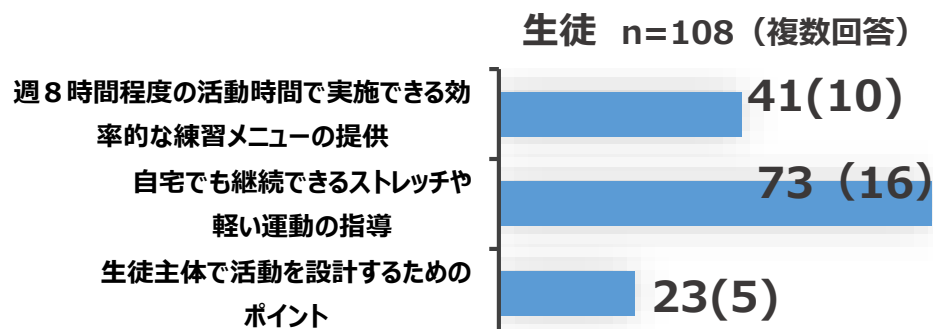
▶ トップアスリートからの指導に対する満足度



▶ 競技力の向上に加え、楽しく参加できたか。



▶ 日々の部活動の質的向上に効果的であったのは？



(注) () は顧問の回答数

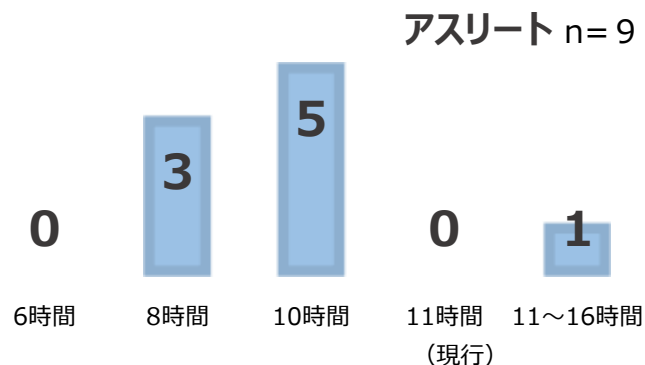
分析①【質の向上】

- 競技力向上 と 楽しさ の両立は可能
- 「自宅でも継続できるストレッチや軽い運動の指導」が効果的だったとする回答が多く、短時間でも効率的な練習が可能であることが示唆。

方向性 ① 佐賀モデル (佐賀市部活動適正化モデル)

佐賀モデル充実のための
Support

アンケート結果② (R7.3/5時点)

プロチーム指導者
国スポアスリート▶ 当日の指導時間 (2時間) について
どう感じたか。▶ 中学校部活動において適当だと
考える週当たりの活動時間は？(注) 「ちょうどいい」と回答した割合は
顧問 (n=18) で89%、アスリート (n=9) で78%

分析②【適切な活動時間】

- 指導時間 (2時間) について「ちょうどいい」との回答が多く、長時間練習でなくても充実した活動が可能であることが示された。
- 部活動の目的により適正な時間は異なるという意見もあり、柔軟な運用の検討も必要。

【8 時間】

週に5回練習したとして2時間の日が1回、1時間半の日が4回で集中力が高いままトレーニングを実行できる。

【8 時間】

- 短時間で集中した練習ができる
- 空いた時間を有効活用できる
- 物足りないくらいが自分で考える時間や改善点を模索し、燃え尽きも防げる

【10 時間】

1日2時間程度活動することを念頭に2時間×5日間で10時間。
ただし、強くなりたいという思考の子どもは自主的に追加の練習に取り組むことが予想される。自主練習も含めて10時間という認識。

【10 時間】+【11~16 時間】

何を目的に部活動をするかで変わる。競技志向なら10時間とかそれ以上必要。同じ部でも志向や目標は1人1人違うので、学校部活動として担う範囲が広いのが問題では。

方向性 ① 佐賀モデル (佐賀市部活動適正化モデル)

佐賀モデル充実のための
Supportプロチーム指導者
国スポアスリート

アンケート結果③ (R7.3/5時点)

▶アスリートの声

- ・生徒自身が練習メニューを組み立て、実践する時間を設けた。
- ・平日2時間の限られた時間の中で、同じ条件下で練習しているバルーナーズユースの実施メニューや時間のデザインなどを盛り込んで指導した。

主体的に取り組んでもらうため、部活動の全体練習だけではできなくても、**家にいる時にできることを**教えた。

「目的」「目標」を明確にして行うように指導した。メニューの前に、「これやろう」などの抽象的な考え方では主体的に物事に取り組めない。メニューの目的などを言葉で伝え、実際に見せることで伝わることを意識して行い指導をした。

▶顧問の声

さっそく、先日教えていただいたメニューを生徒が**したい**とのことだったので実践しています。

どの部活の運動にも参考になる、体幹や基礎、ストレッチなど教えていただき、**選択肢が増えました**。

チーム**全員が納得できる目標設定**が大切。そこから逆算して必要なメニューや時間を考えていけるように、**ミーティングや振り返り**が大切になる。

分析③【主体性の向上、顧問の役割】

- ・「自宅でもできるトレーニング」を伝えることで、部活動内外での主体的な取り組みにつながった。
- ・振り返り、ミーティングを繰り返しながら、考える時間を作っていくことも必要。

方向性 **1 佐賀モデル** (佐賀市部活動適正化モデル)

佐賀モデル充実のための
Support

トッパスリート派遣から見える佐賀モデルの成果と課題

成果

- 01** 短時間でも質の高い活動（主体的な取組）が可能であることを示唆
- 02** 体験を通じて、地域移行後の具体的な姿の1つとしてイメージを持つことにつながった
- 03** 顧問の役割の明確化（目標設定、価値づけ、振り返り、選択肢の提供）

課題

- 01** 競技レベルや目的に応じた柔軟な時間設定が必要。
- 02** 専門指導の定期的・継続実施を求める声。
- 03** 生徒の主体性をさらに引き出すための工夫が必要。

改善策（案）

- 01** 部活動の目的を明確化、目的に応じた活動時間を設定
(例) 時間上限を設定し、参加日数を選択。大会前等の柔軟な調整。90分×4日等、時間を質で管理
- 02** 専門指導の継続的な実施
(例) 月1回or2カ月に1回の合同練習。動画やオンライン指導の活用。大学生等との連携
- 03** 生徒が主体的に考え、計画する仕組み
(例) 週1回からでも生徒が考えるメニューの導入。ミーティング文化の定着。練習動画作成

方向性 ① 佐賀モデル (佐賀市部活動適正化モデル)

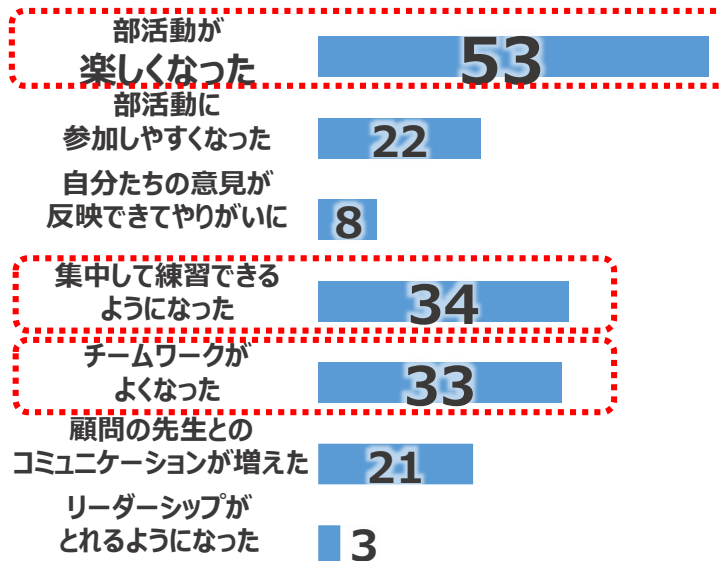
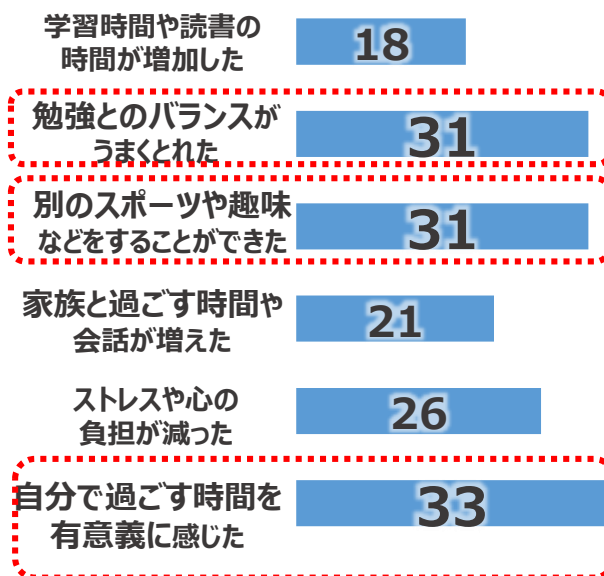
アンケート結果① (R7.3/10時点)

活動の量に対する評価

生徒 n=114

▶ 佐賀モデルの活動時間
(週8時間程度)は適切か？

(注)
() は2週間のみ試行した
学校を除く割合と生徒数を
示している

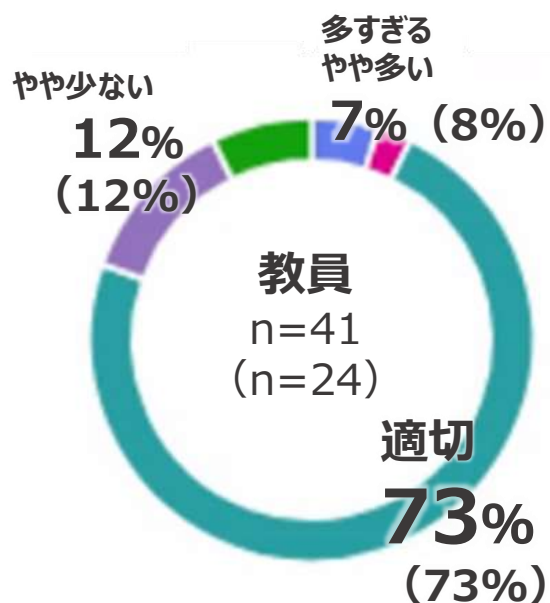
▶ 佐賀モデルに取り組んでプラスになった
ことは？【部活動】 (複数回答)▶ 佐賀モデルに取り組んでプラスになった
ことは？【日常生活】 (複数回答)

方向性 ① 佐賀モデル (佐賀市部活動適正化モデル)

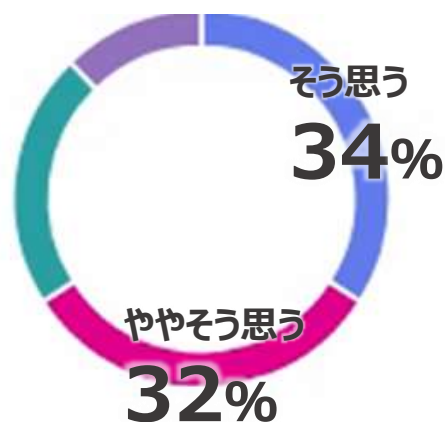
アンケート結果② (R7.3/10時点)

活動の量に対する評価

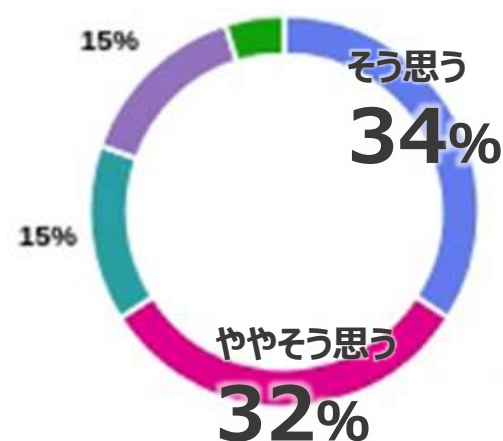
教員 n=41

▶ 佐賀モデルの活動時間
(週8時間程度)は適切か？

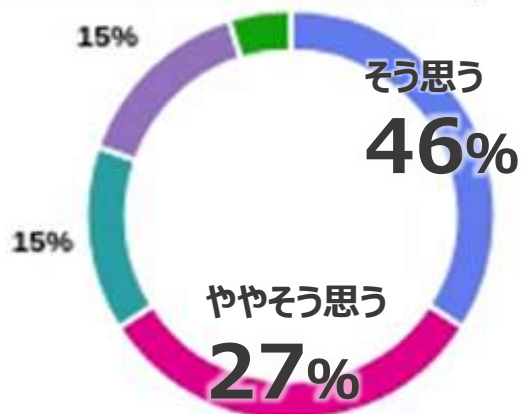
▶ 授業準備・生徒対応の時間が増えた



▶ 趣味や家庭の時間が増えた



▶ 部活動に係る時間外勤務が減った



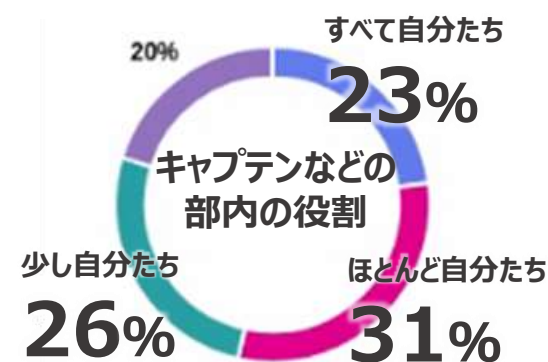
(注)
() は2週間のみ試行した
学校を除く割合と教員数を
示している

方向性 ① 佐賀モデル（佐賀市部活動適正化モデル）

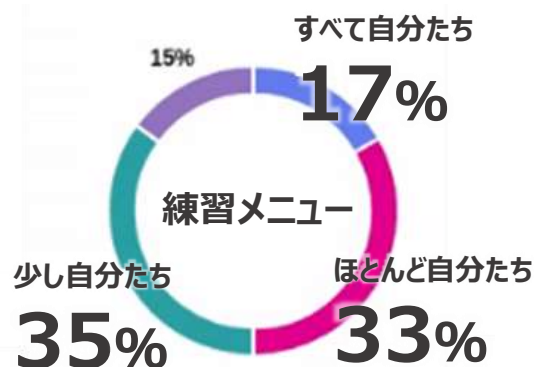
アンケート結果③（R7.3/10時点）

活動の質に対する評価

生徒 n=114（n=46）



うち83%がよかった・とてもよかった



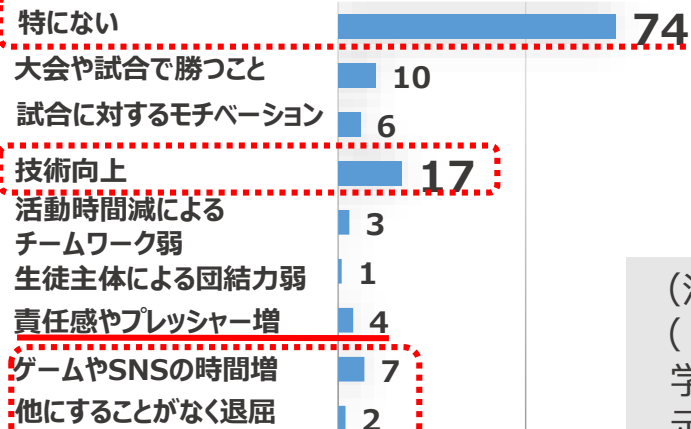
うち62%がよかった・とてもよかった



うち46%がよかった・とてもよかった

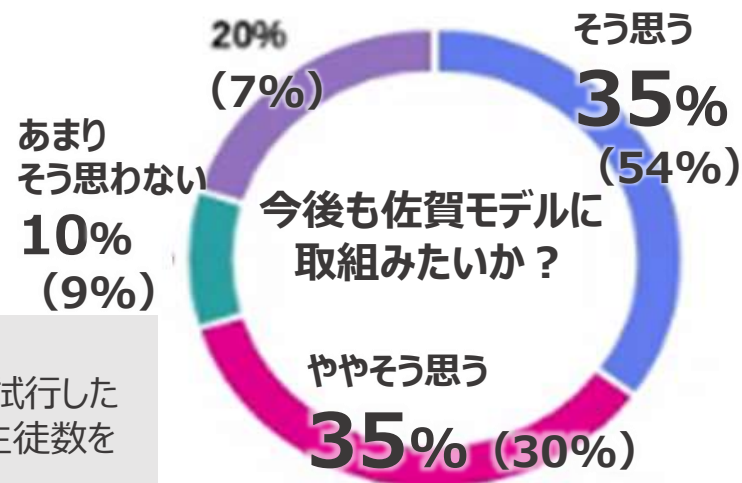
佐賀モデルに取り組んでマイナスになったことは？

（複数回答）



（注）

（ ）は2週間のみ試行した学校を除く割合と生徒数を示している

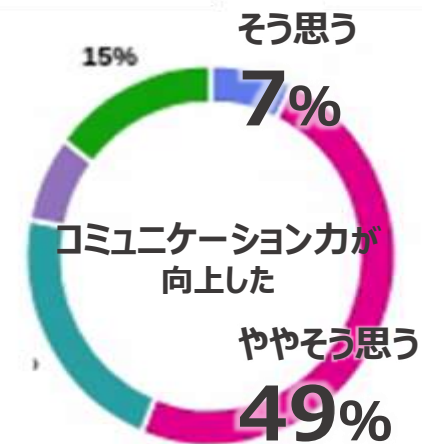
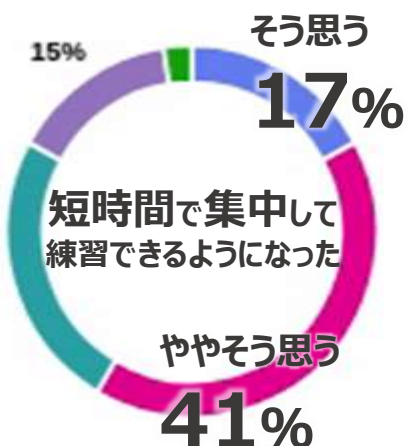
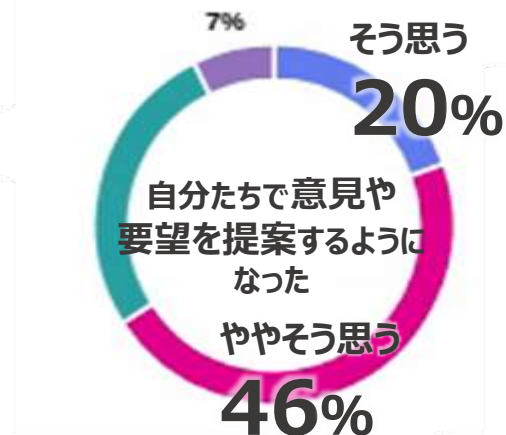


方向性 ① 佐賀モデル（佐賀市部活動適正化モデル）

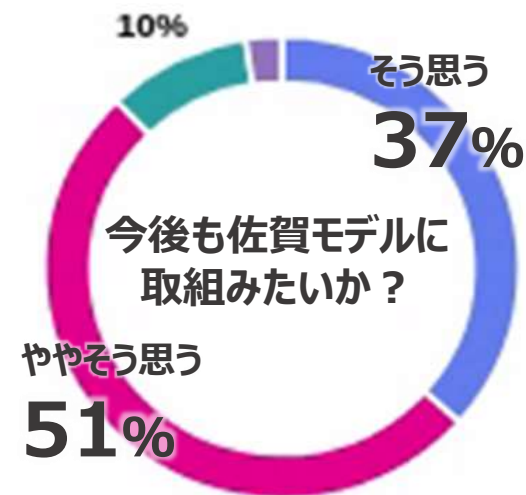
アンケート結果④（R7.3/10時点）

活動の質に対する評価

教員 n=41



▶ 佐賀モデルに取り組んでマイナスになったことは？
（複数回答）



方向性 ① 佐賀モデル（佐賀市部活動適正化モデル）

アンケート結果⑤（R7.3/10時点）

▶ 生徒に決定をゆだねた事項は？（選択肢以外で）



教員

- ✓ チームの目標決め
- ✓ 大会のペアの組合せ
- ✓ 大会や練習試合の出場
- ✓ 土曜日の練習参加の有無

▶ 生徒の主体性を高める上で有効だったと考えられるアプローチや取組は？

- ✓ 何が**目的**なのか、**何のため**の練習で、**何を伸ばしたい**のか？を常に**尋ね**、受け身の活動にならないようにした。



教員

- ✓ **練習メニュー**を生徒**自ら決める**取組は効果があった。教員側からは、**様々なメニューのインプット**、そこからどのメニューを選び、どう進めていくかは生徒が決める。



教員

- ✓ **休みの設定**を生徒に決めてもらった。**大会や学校行事等と関連**させながら練習日と休養日を決めてもらうことで、**マネジメント能力**が付いた。



教員

▶ 佐賀モデルに取り組んで顧問として困ったことは？

- ✓ **強くしてほしい、もっと指導に入ってほしい**という保護者の声との兼ね合い。

- ✓ **他の学校も**取り組んで公平にしてほしい
- ✓ **公式試合、練習試合の数が多いと**、佐賀モデルが成り立たなくなる。



教員

- ✓ **練習メニューや強化メニュー**は以前から生徒に考えさせて部活動をしてきているので、今回の流れは妥当だと思う。



教員

- ✓ **当番制で反省ノート**をまわす。それぞれ口にしないことも書いてあり、生徒同士で口で伝えることまではいかないが、気づいたりすることはできたはずである。



教員

- ✓ まったく主体的にしてこなかった分できたことは良かったが、経験がないからか、困っていた生徒が多く見られた様子であった。



教員

方向性 ① 佐賀モデル（佐賀市部活動適正化モデル）

アンケート結果⑥（R7.3/10時点）

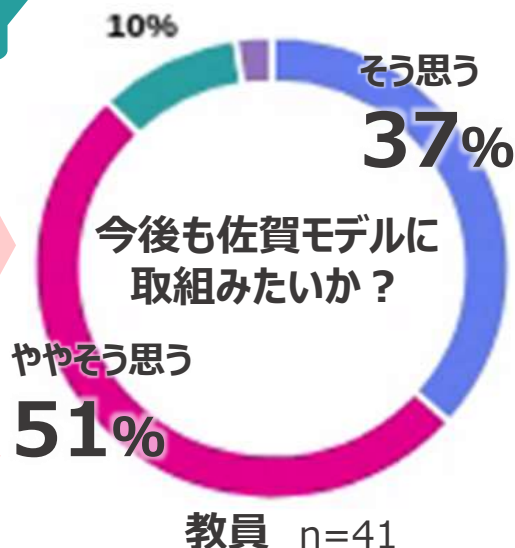
✓ 部活動の在り方を変えていくことも大切だと思いますが、**地域移行**をさらに推進してほしい。

✓ 同じ部活動内でも競技力を向上させたい部員と楽しみたい部員が混在している。**ニーズに合わせた参加の仕方**を可能にしてほしい

✓ **勤務時間内にすべてが終わるモデル**に改善してほしい

✓ **短期間の実施**では、他校のように効果がわからない。

✓ 顧問が3人いることの強みを生かして、より**明確に分担**したい。



✓ 練習参加人数やそれぞれの気持ちの違いもあるため、**教員が入り、環境を整えたうえで**取り組みたい。

✓ **生徒も指導者も時間を大切に**し、お互いが**win-winの活動**であり、今後の**教育活動に幅**ができる。

✓ **限られた時間で効率的に**スポーツすることに**価値**があるから。

✓ **適切な生活リズム**が双方にでき、**心身の安定**に直結する。生徒自身が**考え、工夫する力**が付く。

✓ 部活での拘束時間が減ると、**気持ちにゆとり**ができ、お互いを気かけたり、お互い配慮ができ、声をかけたり話をしたりする余裕ができる。

✓ この取組が当たり前になることで、**保護者や生徒も適切な休養**を取ることができ、**足りない部分は自主的に活動する姿**が見られているから。

分析（生徒）【活動の量】

- 8時間程度の活動時間を**概ね肯定的**にとらえ、**勉強や趣味に時間を使える**ようになったという回答
- 「**部活動が楽しくなった**」・・・本質的な課題解決に。
- 「**ストレスや心の負担が減った**」、「**自分で過ごす時間を有意義に感じた**」という・・・満足度の向上

分析（教員）【活動の量】

- 8時間程度の活動時間を**概ね肯定的**にとらえ、**教員にとって大幅な負担軽減**に
- 「**部活動に係る時間外勤務**」が**減り**、「自分の**授業準備**や**休養**に充てられる時間が増えた」と回答
- 活動時間の適正化は、**教員の働き方改革**と**生徒の学習環境**の両面に**プラスの効果**

方向性 ① 佐賀モデル（佐賀市部活動適正化モデル）

成果

分析（生徒）【活動の質】

- 顧問に求める役割が主体的な活動に関する内容に変化
- 顧問への要望・提案やコミュニケーションが増えた
- 一定期間以上取り組んだ学校の生徒の満足度は高い

分析（教員）【活動の質】

- 生徒主体の活動に転換することによる、主体性の高まりを実感
- 教員の役割が明確になった
（目標設定、価値づけ、フィードバック、振り返りのコーディネート）
- 時間の上限設定＋練習計画作成で時間の有効活用に

▶佐賀モデルに取り組む上で、顧問の先生（指導者）に期待する役割をすべて回答してください。（複数選択）

生徒 n=114

練習メニューの選択肢を
与えてくれる 35練習時間や練習日を
決めさせてくれる 16個人・チーム状況に応じた
参加の仕方を認めてくれる 9個人・チーム状況に応じ
た技術指導 25

技術以外を指導してくれる 17

こまめに声をかけてくれる 28

勝利至上主義に
偏らないこと 8事故やトラブルが起きな
いように安全配慮 22

あてはまるものはない 23

（注）同じ質問に対する顧問の回答も同様の傾向

方向性 ① 佐賀モデル（佐賀市部活動適正化モデル）

課題

分析（生徒）【活動の量】

- 「大会前などはもう少し練習時間がほしい」という声（一部）
- モデル校だけ取組むことへの不公平感（合同チームで活動する場合の学校間の練習量の差 含む）
- 覚えなないといけないことが多い時期に、週 8 時間でマネジメントすることへの不安。

分析（教員）【活動の量】

- 勤務時間内にすべてが収まるモデルに改善を。
- 公式試合、ローカル大会等が多くなると、佐賀モデルでの活動が困難に（大会数の精選）
- 市内全校で共通実践にし、生徒・保護者にとって不公平感がないように。

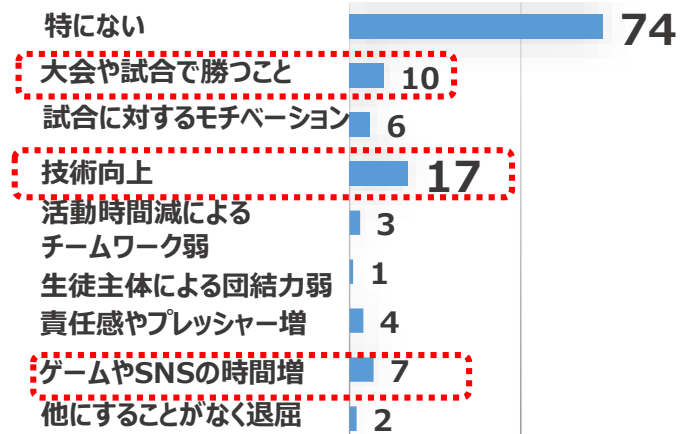
方向性 ① 佐賀モデル（佐賀市部活動適正化モデル）

課題

▶ 佐賀モデルに取り組んでマイナスになったことは？（複数回答） 生徒 n=114

分析（生徒）【活動の質】

- 「技術向上が遅れた」と回答（一部）
- 「大会や試合でいい成績が収められなくなった」と回答（一部）
- 「ゲームやSNSの時間が増えた」と回答（一部）



分析（教員）【活動の質】

- 生徒主体＝すべて任せるという誤解を招かないように。必ず教員側の働きかけが必要。
- 専門外の顧問でもできる選択肢の提示等の情報提供・研修機会が必要。
- 目標設定も含めたミーティング文化の定着を図る必要